

テロ関連ウェブサイト共有データベースの運用開始について

1 経緯

ASEAN各国と連携したテロ関連ウェブサイト共有データベースの創設については、平成21年5月のベトナム・ハノイで開催された第29回ASEAN警察長官会合（ASEANAPOL）^{アセアナポール}において警察庁から提案し、同意を得た。

その後、第31回（平成23年）及び第32回（平成24年）のASEANAPOLでも継続して協議し、本データベースの利用の促進等で意見の一致を見てきたところ。

この間、警察庁及びASEAN各国は、運用の在り方について協議を行いつつ、ネットワークを構成する端末の調達を始めとする基盤整備を図るなど所要の準備を進めてきたところ、本日、運用開始の運びとなったもの。

2 システムの概要

(1) 名称

テロ関連ウェブサイト共有データベース（The Shared Database of Websites related to terrorism for ASEANAPOL members' countries and National Police Agency of Japan（SDWAN））

(2) 構成

警察庁にデータベースを設置。所要のセキュリティを施した上で、我が国と各メンバー国においてネットワークを構成。

(3) 入力される情報

テロ組織が運営するウェブサイト、テロに関する犯行声明、暴力的な見解の宣伝等に係る情報を英語に翻訳した上で、入力する。

3 期待される効果

「アル・カーイダ」を始めとする過激派組織及びその支援者等がインターネットを活用して、過激思想を広め、構成員を勧誘したり、相互にテロ関連技術・知識を共有している中、テロ関連ウェブサイトのチェック業務を国際的に分担（特に言語への優位に応じて分担）することにより、東南アジア域内及び我が国において効率的なテロ対策の推進が可能となること。

本システムの枠組みを通じ、テロ対策分野における警察庁と東南アジアの警察機関との協力体制が強化されること。

